

二 村 一 夫 年 譜

年 月	二村 一夫 個人	関 連
1934年 2月	長野県松本市に生まれる。同年5月には上諏訪に移る	
39年 8月	東京市滝野川区田端町に移る	
40年 4月	滝野川第一小学校入学	41年12月 太平洋戦争
44年	春母方の郷里である長野県北佐久郡春日村に縁故疎開	45年 8月 敗戦
46年	春日小学校を卒業し、望月中学校に入学	
47年	長野県立諏訪清陵高校併設中学校へ転校	
48年	東京都立大泉高等学校へ転校	大原社研『資料室報』創刊 大原社会問題研究所、法政大学と合併 講和条約発効。『歴史と民族の発見』 大原社研、新築の大学院棟5階に移転
49年		
52年	大泉高校卒業、東大教養学部へ入学	
53年		
54年	国史学科へ進学	『農民運動資料』、『評議会婦人部論争資料』
56年 3月	国史学科卒業。卒論「初期社会主義=労働運動に関する一考察 - - 足尾暴動を中心として」	
56年 4月	法政大学大学院政治学専攻入学。大原社会問題研究所の資料整理、柏木の土蔵に通い、資料発掘	『日本労働組合評議会資料』その1刊行
58年	修士課程修了、法学部助手となる	
59年	「足尾暴動の基礎過程」	
60年 4月	東邦大学一般教養科講師を経て助教授(63年)	「我が国労農運動における社会民主主義の研究」に科学研究費 「労働関係文献月録」を『月刊労働問題』に連載開始
8月		
66年 4月	法政大学大原社会問題研究所兼任研究員	久留間所長退任、宇佐美所長就任 大原社会問題研究所麻布分室設置
67年 4月	同専任研究員。創立50周年記念事業として、復刻シリーズ《日本社会運動史料》の刊行を企画し、編集を担当	
68年 4月	50周年記念展の企画・構成・解説を担当	大島清所長就任 大原社会問題研究所創立50周年 『新人会機関誌』刊行 大原社研、パリストのため麻布で業務 《社会運動の半世紀》展開催 舟橋尚道所長就任
69年 2月		
3月		
5月		
70年 4月	この頃、福島大学、中央大学、東京大学で労働運動史を講義（～76年）	
71年 4月	この頃、関東・関西の主要私大の研究所視察	中林賢二郎氏社会学部へ、後任早川征一郎氏 麻布分室で所蔵図書・資料の公開開始
73年 4月		宇佐美誠次郎所長就任 社会・労働問題研究センター設立
12月	法政大学教授となる(センター設立による)	
74年 4月		大島清所長就任
76年	欧米留学に出発(8月～78年3月)	宇佐美誠次郎所長就任
77年 8月	イリノイ州ウォリック大学社会史研究所訪問研究員、アリゾナ州アリゾナ大学、ミシガン大学、カリフォルニア大学バークレー校各日本研究所の訪問研究員	大原研究所、IALHI（国際労働史研究協会）に参加 大島清所長就任
78年 4月	労働運動史研究会事務局長（～84年3月）	創立60周年記念秘蔵貴重書展示会
79年 6月	ウォリック大学社会史研究所名誉研究員	
10月	東京大学経済学部兼任講師	
80年 4月	労働運動および労働者階級に関する第1回国際フォーラム(パリ)に出席。フランス、イギリス、ドイツの労働関係の文書館や研究所を視察。パリ東洋大学で講義（～5月）	舟橋尚道所長就任 第1回公開講座

<p>81年 3月 4月 10月 83年 4月 83年11月 84年 5月 8月</p>	<p>このころ、足尾暴動研究を再開 財団法人・大原社会問題研究所 評議員 一橋大学院社会科学研究所 兼任講師 財団法人法政大学大原社会問題研究所理事 『社会・労働運動大年表』の企画決定 公開講座「企業別組合論の再検討」を企画し 「企業別組合の歴史的背景」につき報告 社会政策学会幹事(～90年) 加フォルニア大学バークレー校東アジア研究所及び日本研究 研究所の招聘で在外出講(～85年3月)</p>	<p>研究所、新築の80年館3階に移転 斎藤泰明氏退職、後任に佐藤博樹氏 研究所理事会、多摩移転、研究所改組 の方針を決定 この年、パソコン第1号機導入</p>
<p>85年 4月 86年 3月 4月 5月 8月 10月 87年 4月 88年 5月 6月 89年 2月 5月 8月 90年 5月 7月 8月 91年12月 92年 5月 93年 7月 94年 3月 5月 95年 8月 96年12月 97年 1月 2月 7月 9月 11月 98年 4月</p>	<p>大原研究所の所長に就任(～94年) 「足尾暴動の主体的条件」(～12月) 『足尾暴動の史的分析』刊行 社会史国際研究所の招待で「労働運動の生成 要因の国際比較」研究プロジェクトに参加 第1回 Duke in Hosei Program のコーディネ ーター(90年も) 8月 鉦山史研究国際会議(西ドイツ・ボーフム)で報 告。オーストリア・リンツ労働史国際会議、 国際労働史研究協会総会(オランダ)に出席 イギリス・シェフィールド大学日本研究所創 立25周年記念国際会議で報告 90年 5月 社会史国際研究所の招待で、オランダ・アル クマールの国際会議に出席 7月 法政大学夏期講座の引率者としてデューク大 学へ(～8月25日) 8月 フィンランドでのIALHI総会に出席(～9月) 91年12月 韓国・高麗大学主催の国際会議に招かれ、報告 92年 5月 社会政策学会幹事(～現在) 93年 7月 オーストラリア・ウロンゴン大学主催の国 際シンポジウムで報告 94年 3月 大原社会問題研究所 所長退任 5月 社会政策学会代表幹事に就任(～96年5月) 95年 8月 韓国・仁荷大学校でのシンポジウムで報告 96年12月 97年 1月 研究所のホームページのリンク集を担当 2月 社会政策学会ホームページの開設を担当 7月 『明治日本労働通信』刊行 9月 個人ホームページ＝二村一夫著作集を開設 11月 <i>The Ashi Riot of 1907</i> 刊行 98年 4月 研究所ホームページを担当</p>	<p>向坂逸郎文庫受贈 『日本労働年鑑』5部構成に変更 研究所、多摩校地に移転 財団法人を解散し、付置研究所となる 『研究資料月報』、『大原社会問題研 究所雑誌』と改題 労働資料協、正式発足(準備会は83年) 大野喜実氏死去 『社会・労働運動大年表』刊行開始 佐藤博樹氏経営学部へ、後任五十嵐仁氏 「パソコンによる労働問題文献データベース 研究」に対し私学振興財団より学術振興資金 創立70周年記念シンポジウム「外国人労働者 と労働組合」開催(11月) マルチメディア・データベースに科学研究費 10月 社会政策学会会則、45年ぶりの全面改 訂、幹事の大選禁止など 大原社会問題研究所ホームページ開設 研究所ホームページでデータベース公 開 リプロ電子工房設立 WWW上でのマルチメディア・データベ ースに科学研究費特別助成</p>